

## 代替医療、補完代替医療、そして統合医療

近年、現代医療の側が補完代替医療 (Complementary and Alternative Medicine: CAM) を議論の俎上に乗せたり、自らが提供する医療サービスの選択肢に含めたりする例が著しく増えてきたように思われる。今回はその状況を報告する。文脈に従って様々な呼称を用いて CAM を表現するので、最初に用語を解説する。

現代医療の範疇に含まれない医療のことを、1990 年代の初めごろ米国では『代替医療』と呼ぶのが通例であった。しかし、これらの医療の大部分は、実際には現代医療を代替するというより、むしろ補完する性質のものである。ゆえに 90 年代の中ごろから、これらを『補完代替医療 (CAM)』と呼ぶことが次第に定着してきた。

しかしそれと平行して、現代医療と CAM の優れた部分を統合し、新たな医療を生み出そうという意味合いを込めて、その実践を『統合医療』と呼ぶ人々も一部に見られるようになった。これらは多くが現代医療システムに批判的で、CAM を熱烈に支持し、CAM の中に現代医療に対するアンチテーゼとしての役割を見出そうとする人々であった。すなわちこの段階では、統合医療という言葉を用いること自体がある思想信条の表明であった。

しかし昨今では、統合医療という言葉はより平易に広く用いられている。例えば NCCAM (国立 CAM センター) は、統合医療を表 1 のように定義している<sup>(1)</sup>。そこには現代医療に対する批判的なニュアンスは見られない。

表 1 NCCAM による統合医療の定義

NCCAM の定義する統合医療とは、主流の医療と、安全性と有効性についての質の高いエビデンスがある程度存在する CAM 療法とを、結合するものである。

## 大学の CAM への取り組み

一方で、ある理念の下に統合医療という言葉を用いる場合も依然として存在する。CAHCIM (統合医療アカデミックヘルスセンター共同体)<sup>(2)</sup>はその良い例である。

CAHCIM とは、医科大学の統合医療担当部門が作った全国組織である。1990 年代の後半、CAM が隆盛になるにつれ、さまざまな医科大学が CAM センターを設立した。そして 1999 年ごろ各大学の CAM センターが連携し CAHCIM の母体ができた。CAHCIM は、その使命が現代医療の変革にあることを明確に述べている (表 2)。その統合医療の定義も、使命と読み合わせると意図するところがより良く理解できよう。

表 2 CAHCIM による統合医療の定義とその使命

◆ **統合医療の定義**

統合医療とは、施療者と患者の関係の重要性を再確認し、人の全体性に焦点をあて、エビデンスを持って情報提供し、最善の健康と治癒に到達するためにすべての適切な治療的アプローチ、ヘルスケア専門家および学問分野を活用する、医療の実践である。

◆ **使命**

われわれの使命は、生物学、人間の複雑さ、本来備わっている治癒力、および治療システムの豊かな多様性などを統合した、厳密な科学研究、臨床治療の新しいモデル、および革新的な教育プログラムを通して、医学とヘルスケアが変わってゆくのを助けることである。 (下線引用者)

現在では北米にある約 130 の医科大学のうち、UCLA、アリゾナ大学、コロンビア大学、ジョージタウン大学、ハーバード大学、ペンシルバニア大学、ミネソタ大学など 27 大学 (全医科大学のおよそ 20%) が CAHCIM に加盟している。

CAHCIM への加盟資格は次のとおりである。まず、現代医学の医科大学であること (自然療法、カイロプラクティック、鍼灸などの大学は加盟資格がない)。そして研究・教育・診療のうち一つ以上の分野において統合医療のプログラムを既に実践しており、二つ以上の分野について統合医療の推進計画を提出できること。さらに大学 (学部) として正式に統合医療推進を支持することを表明しており、学部長名で加盟を希望する旨の手紙を出すこと、などである。

現代医学の大学内には、CAM に抵抗感を示す人々も少なからず存在するはずである。それをクリアし、これほど多くの大学が CAHCIM に参加しているという事実は、大学レベルでの CAM の浸透を示すものとして極めて印象深い。

### 病院の CAM への取り組み

AHA (米国病院協会) の調査によれば、外部との提携などによらず自ら CAM 治療を提供している病院は、1998 年には全病院の 7.9% だったが、2002 年には 16.6% に倍増しているという<sup>(3)</sup>。

これら病院が提供する CAM 治療は、多い順に、マッサージ療法、ストレスマネジメント、ヨガ、リラクゼーション、パストラルケア、鍼灸、バイオフィードバックなどであった。CAM を取り入れる理由として挙げられたのは、多い順に、患者からの要望、病院の使命として、CAM は有効である、患者を獲得するため、などであった。

CAM 部門は 40% が赤字を計上しており、15% は将来も採算が合うことを期待していないという。CAM 治療を提供する上での最大の問題点は予算の厳しさであり、ついで医師の抵抗、エビデンスの乏しさだと報告されている。

CAM 治療は一般に、時間も人手もかかるにも関わらず、高価な医療機器や医薬品を用いないので、現代医療ほど高い価格を患者に請求することができない。狭い意味での採算性を考えたら得策ではないのである。しかしこれらの病院は、前述のような理由を総合的に判断し、CAM を取り入れているのである。

現在では、CAM 治療を提供する病院はおそらく 20% 前後には達しているだろう。面白いことにこの割合は、統合医療を積極的に推進する大学の割合とほぼ等しい。現代医療の代表である大学と病院の 5 分の 1 が CAM を自らの中に公式に取り込み、呼称や水準はともかく、統合医療を実践しているのである。

## スローンケタリングの統合医療

具体例として、ニューヨークにあるスローンケタリング記念がんセンター（右写真）の統合医療を見てみよう。スローンケタリングは周知のように、120年の歴史を持つ世界有数のがんセンターである。彼らがCAMをどう考えどう実践しているのか、大変興味を持たれる。



1月の極寒のある日、スローンケタリングのゲイリー・デン先生の計らいで、統合医療部門を訪問した。デン先生は本草小柴胡湯の治験統括医師でもある。部門長であるバリー・キャッシュレス先生を交えて親しく話を伺い、統合医療外来センターを見学させて頂いた。

また昨年12月と今年2月、2つの補完代替医療の国際学会において、スローンケタリングのリーダーたちが「がん治療におけるCAM」について講演するのを聴き、質疑を交わすこともできた。以下はそれらの見聞とスローンケタリングのウェブサイトやパンフレットなどの情報をまとめたものである。以下敬称は省略する。

## スローンケタリングのCAM観

スローンケタリングの統合医療サービスは、1999年にキャッシュレスを責任者に招聘して発足した。キャッシュレスはがんとCAMに関する医療社会学者として早くから知られており、CAMに関するいくつもの著作がある。1992年にNIHに代替医療局が創設された時の顧問でもある。

スローンケタリングはCAMを次のようにとらえている。がん治療においては現代医療の代替になるようなCAMは存在しない。ゆえにスローンケタリングはCAMを『補完医療』と呼ぶ。補完医療の中には、効果がないばかりか有害なものも混在する。一方、極めて有効で安全性の高い補完医療も確かに存在する。これらを判別し、有用な補完医療を患者に提供し、患者がCAMによる不利益をこうむらないよう守ることが、スローンケタリング統合医療サービスの使命である。

この考えのもとに、スローンケタリングは自らCAMの研究、診療、啓蒙を行っている。これまでに有用と認め、現在患者に提供している補完医療は、タッチセラピー、心身療法、フィットネス療法、音楽療法、鍼灸の5分野である（表2）。食事やサプリメントについてのカウンセリングも行う。

表2 スローンケタリングの提供する補完医療

| 分類       | 内容                            |
|----------|-------------------------------|
| タッチセラピー  | リフレクソロジー、指圧、アロマセラピーマッサージ、霊気など |
| 心身療法     | ポラリティセラピー、瞑想、催眠療法             |
| フィットネス療法 | ヨガ、アレキサンダーテクニク、気功、チェアエアロビクスなど |
| 音楽療法     | 音楽療法、サウンドセラピー                 |
| 鍼灸       | 鍼灸、推拿(ツイナ)                    |

スローンケタリングの年間2万人の入院患者は、入院オリエンテーションの時に統合医療サービスについても説明を受ける。希望する入院患者には補完医療が無料で施される。外来患者には有償の統合医

療外来センターが週 6 日開かれており、毎月約千人が外来センターで補完医療を受ける。

統合医療サービスはパートタイムも含め約 50 名のスタッフを擁する。その中にはマッサージ療法士が 8 名、鍼灸師と看護師が各 4 名、医師、薬剤師、栄養士、リフレクソロジスト、心身療法専門家などが各 1 名含まれる。外部の鍼灸師にがんの鍼灸療法を教えたり、がん患者の家族にマッサージ療法を教えるトレーニングクラスなども開講されている。

## スローンケタリングと東洋医学

鍼灸のがん治療における有用性は、スローンケタリングでは既に公認のものである。慢性の疲労感、頭頸部がんの放射線療法による口腔乾燥症、術後の疼痛、乳がん患者のホットフラッシュなどの治療に鍼灸が取り入れられている。その他、指圧、霊気、気功、推拿（ツイナ）、太極拳など、東洋医学は大いに活用されている。

しかし残念ながら、漢方を含む生薬療法はその段階に至っていない。生薬療法のうちあるものが、現代がん治療を補完する可能性があることはスローンケタリングも認めている。しかしその医学的エビデンスはまだ乏しい。逆に生薬製剤のうちあるものは、併用する医薬品と相互作用を示したり、手術療法や放射線療法の効果や回復を妨げたりすることが報告されている。ゆえに、スローンケタリングは慎重を期し、入院患者や術前の患者には生薬製剤を服用しないように指導している。

生薬製剤で患者に投与されるのは、IRB（施設内倫理委員会）の審査を経て臨床試験を行っているものだけである。スローンケタリングは現在 270 を超える数の臨床試験を行っているが、そのうち生薬製剤が表 3 に示すように 4 件ある<sup>(4)</sup>。金復康は 12 種の生薬からなる中成薬で、CAMの臨床試験は他に鍼が 5 件、マッサージ療法が 1 件進行中である。

表 3 スローンケタリングで臨床試験を実施中の生薬製剤

| 生薬製剤             | ステージ    | 対象疾患     |
|------------------|---------|----------|
| 本草小柴胡湯           | 第 2 相   | C 型慢性肝炎  |
| マイタケエキス          | 第 1/2 相 | 乳がん      |
| オウレン             | 第 1 相   | 進行性固形がん  |
| 金復康(Jin Fu Kang) | 第 1 相   | 非小細胞性肺がん |

## スローンケタリングのアプローチ

本草小柴胡湯の研究については中間成績を前回報告したので、ここではマイタケエキスを例にとってスローンケタリングの研究姿勢を説明する。マイタケの活性画分 D-フラクションには免疫賦活作用、抗腫瘍作用、アポトーシス誘導作用などがあることが報告されている。がんや HIV の患者に広く用いられており、治療に用いる医師も少なくない。

スローンケタリングはこれに着目し、マイタケエキスの臨床試験を計画し、自らの研究所でその品質を確認し薬理試験を行った。そして用量設定試験を行い、至適用量を定めて、いまようやく乳がん患者への投与が始まろうとしている。ここまでの準備に実に 3 年以上を費やしている。

このように、スローンケタリングの取り組み方は本格的で腰が据わっている。ここで良い結果が得られれば、鍼灸のように治療の選択肢に取り入れられる可能性がある。スローンケタリングが治療に用いているとなれば、その波及効果は計り知れない。ぜひとも本草小柴胡湯が良い結果を出し、漢方が米国医療の主流に認識される日が来ることを祈らずにはいられない。

## 参考

- (1) National Center for Complementary and Alternative Medicine. What is Complementary and Alternative Medicine (CAM)? <http://nccam.nih.gov/health/whatiscam/#3> February 28, 2005
- (2) The Consortium of Academic Health Centers for Integrative Medicine. <http://www.imconsortium.org/html/about.php> February 28, 2005
- (3) Hospital and Health Network. CAM Services on the Rise. [http://www.hospitalconnect.com/hhnmag/jsp/articledisplay.jsp?dcrpath=AHA/PubsNewsArticle/data/040120HHN\\_Online\\_Ananth&domain=HHNMAG](http://www.hospitalconnect.com/hhnmag/jsp/articledisplay.jsp?dcrpath=AHA/PubsNewsArticle/data/040120HHN_Online_Ananth&domain=HHNMAG) February 28, 2005
- (4) Memorial Sloan-Kettering Cancer Center. Integrative Medicine. Clinical Trials. <http://www.mskcc.org/mskcc/html/11901.cfm> February 28, 2005